

江戸東京博物館史料叢書12

米屋田中家

明治年間日記

1

東京都江戸東京博物館  
都市歴史研究室編

江戸東京博物館史料叢書12

米屋田中家

明治年間日記

1

東京都江戸東京博物館  
都市歴史研究室編

明治三庚午年 町用日記 (四月二十八日～十二月三日)	.....	1
日記 明治三庚午年 (正月元旦～十二月大晦日)	.....	61
日記 明治四辛未年 (正月元旦～十二月大晦日)	.....	127
日記 明治五壬申年 (正月元旦～十二月二日)	.....	183
明治七戌年分 (一月一日～十二月三十一日)	.....	231
明治八亥年分 (一月一日～十二月廿六日)	.....	287
語句解説	.....	347

凡例

一、本書は、東京都江戸東京博物館所蔵田中家文書の中の「日記」（三年の「町用日記」を含む）明治三十五年の内八年まで（六年は欠）を翻刻したものである。翻刻に際しては同館所蔵マイクロフィルム（日本マイクロ写真）を使用した。

一、翻刻に際しては原文書の様式を残すようにつとめたが、読みやすさなどを考慮して次の様にした。

1 本文は一つ書きごとに追い込みとし、文中に適宜、読点「、」、並列点「・」を付した。

2 漢字の旧字体・異体字・俗字は原則として常用漢字としたが、常用漢字にないものは正字を用いた。

3 但し、一部の漢字は躰・抔・惣に限り原文書のまま用いた。当て字・誤字はそのまま表記し、正しい文字がわかる場合は（何）、

正誤不明の場合は（ママ）あるいは（何カ）と傍記した。また脱字がある場合は同様に（何脱カ）、明らかに余計な文字は（衍字）と

傍記した。頻出するものは同一の月において初出のみ記した。なお、以下の当て字は原文書のままとし、傍記も略した。

至（||到、至来・至着）、義（||儀）、丁（||町）、家（||屋、家根、長家）、懸（||掛） 坂||阪（大阪・大坂） 欠付（駆付）

4 片仮名はそのままとし、変体仮名は平仮名にあらためた。但し、而・者・江・茂・与はそのままとし、文字ポイントを下げ、

右寄せした。合字は平仮名にあらためた。

5 (例) 方↓より

6 解読不能の文字は、字数分の□、字数不明のときは「 」とした。踊り字については、漢字は「々」、平仮名は「々」、片仮名は「々」、

7 を用い、大返しは「〜」を用いた。

8 原則として台頭は三字あけ、平出は二字あけ、闕字は一字あけとした。

9 印章は実際に押印されているものは（印）と表記し、文字で印と記されている場合はそのまま 印 と表記した。

10 ( ) のないルビなどは、原文書に振られたものである。

11 人名で同一人にも拘らず「治助」と「次助」、「勝蔵」と「勝三」「勝造」等の混用が見られる場合もあるが、統一せず、原文書の表記通りとした。

12 但し、他史料などで確認出来るものは傍注を付した。

13 ヲは「合計」の意の場合のみそのままとし、「締」・「貫」の意の場合はそのぞれの漢字で表記した。

14 挟込文書は罫線で囲んで範囲を示し「挟込文書」と注記を付した。抹消は当該文字に二重線を施し、訂正記事がある場合は右傍に示した。

15 文中※のついた語句は、「語句解説」に解説を付した。

一、翻刻文中には、現在の人権意識からみて不適切と思われる表現も使用されているが、資料文献であるため原文を尊重し、そのまま翻刻した。正しい理解と認識のもとに利用されることを願うものである。

一、本稿の編集は都市歴史研究室の田中実穂が担当し、語句解説は増田琴子が作成した。翻刻にあたっては以下の諸氏の協力を得た。記して感謝したい。

- 大野晴美 岡橋園子 川端範子 小山治夫 齊藤紀子 佐藤壽昭
- 島 恵子 高田啓右 高橋 知 津嶋靖弘 中屋信次 本庄文江
- 三神千種 宮本慶子 牟田俊子

江戸東京博物館  
史料叢書 12

米屋田中家 明治年間日記 1

発行日 令和三年三月二十六日

編集 東京都江戸東京博物館  
都市歴史研究室

発行 (公財) 東京都歴史文化財団  
東京都江戸東京博物館  
〒130-0015  
東京都墨田区横網1-4-1  
TEL 〇三三六二六九九七四 (代表)  
FAX 〇三三六二六八〇〇一

印刷 勝美印刷株式会社

ISBN 978-4-909155-18-4 C0021